



アール・デコのデザインと日本の意匠が融合した、唯一無二の建築空間。国の重要文化財に指定されている東京都庭園美術館本館 (兼者撮影)

新緑の東京都庭園美術館 年に一度の建物公開展
「建物公開2026 アニマルズ in 朝香宮邸」
6月14日まで



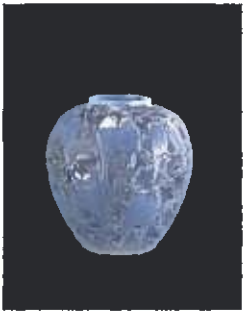
旧朝香宮邸の最上階・3階に位置するウインターガーデン。白と黒の市松模様の床が印象的。2003(平成15)年の修復後に一般初公開されて以降、展覧会によって限定公開される



庭園も宮邸時代の面影を残しており、築山と池を備え起伏に富んだ日本庭園は、桜や紅葉など四季折々の変化を楽しめる



芝生が広がり開放感のある「芝庭」。ベンチが配された寛ぎの空間で、春にはワシントン桜が楽しめる「西洋庭園」



ルネ・ラリック花瓶《インコ》1919年 東京都庭園美術館蔵
朝香宮邸の内装にはたくさんの動物が隠れている

画像提供：東京都庭園美術館



フランソワ・ボンボン
《シロクマ》
1921-1924年 群馬県立館林美術館蔵

新緑の季節、美しい庭園での散策は楽しい。東京都庭園美術館では、年に一度の建物公開展「建物公開2026 アニマルズ in 朝香宮邸」が開かれている。今年も、動物たちをテーマとした建物の魅力を探るユニークな企画。

1920年代、フランス・パリで全盛期を迎えたアール・デコに触れた朝香宮邸(1921年)は、鳩彦王・九子妃は、帰国後にアール・デコを取り入れた邸宅を建てた。主な部屋の内装は、アンリ・ラパンやルネ・ラリックなどの芸術家たちが手がけ、また、全体の設計は宮内省内匠寮の技師が担い1933年に竣工された。1983年には美術館として開館。

宮邸時代の家具や調度品を用いて邸宅の雰囲気再現した部屋や建築空間、芸術家たちが手がけた室内装飾など、往時の雰囲気を楽しみながら建物自体の魅力に触れることができる。

かつて朝香宮邸では、鶴や白孔雀、犬、ウサギなどが飼われ、実際に生活していたばかりでなく、建物の室内装飾にも、鹿や魚など動物たちがモチーフとして用いられている。

普段は作品保護のために閉められていること多いカーテンが開けられ、庭園の美しい緑を臨める。さらに、新館では20世紀の西洋美術の多様な動物モチーフの作品が紹介されている。

「建物公開2026
アニマルズ in 朝香宮邸」

2026年4月11日(土)から6月14日(日)
時間 10時～18時(入館は閉館の30分前まで)
休館日 毎週月曜日

- 日時指定予約制(来館時にチケット購入)
- 一般 1,000円 ○大学生 800円
 - 高校生・65歳以上 500円
 - 中学生以下は無料(予約不要)

東京都港区白金台5-21-9

ハローダイヤル 050-5541-8600

<https://www.teien-art-museum.ne.jp/>